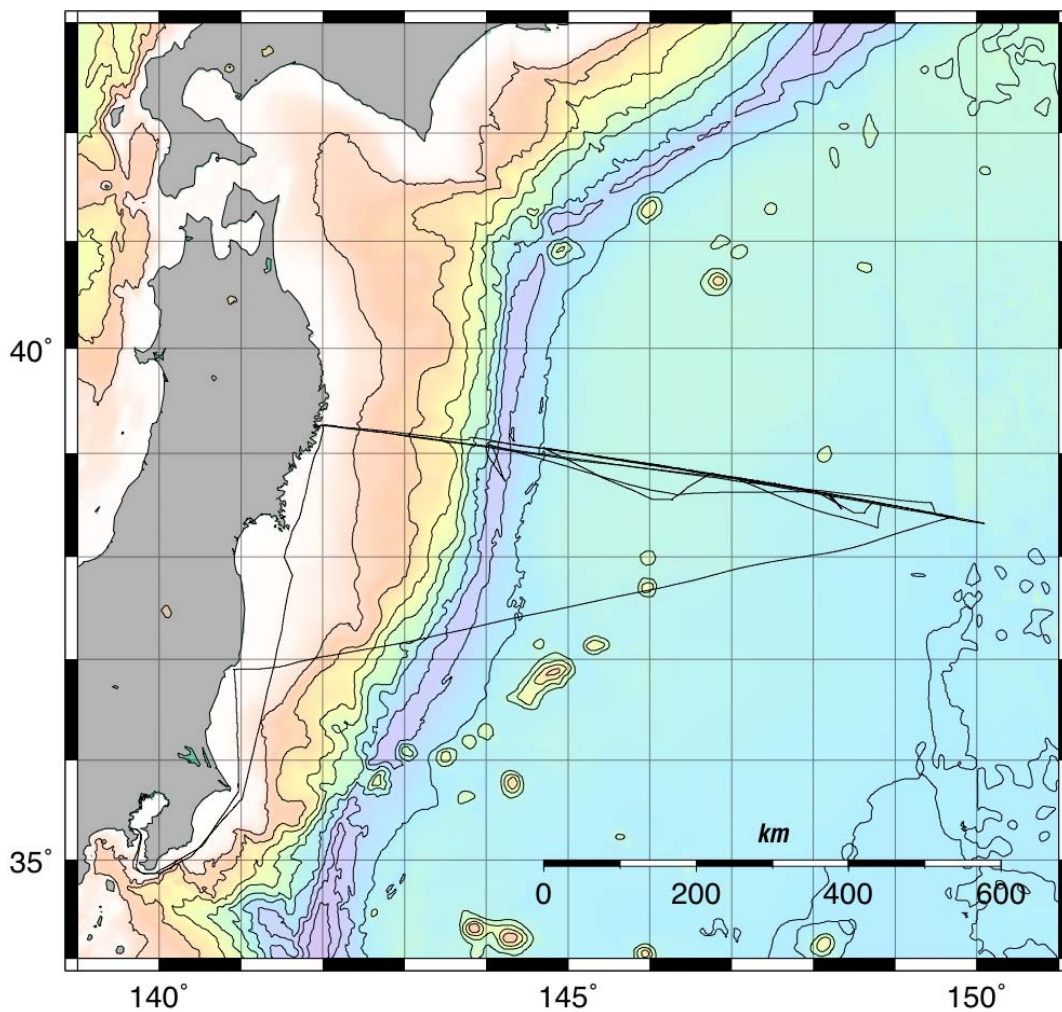


提出日 平成 21 年 1 月 22 日

クルーズサマリー

1. 航海関連欄内容：

- (1) 航海番号・使用船舶：KR09-17・かゐいれい
- (2) 航海名称（実施要領書名）：平成 21 年度「北西太平洋における地震探査調査研究」
- (3) 首席研究者・所属機関：海宝由佳・海洋研究開発機構
- (4) 課題代表研究者・所属機関：深尾良夫・海洋研究開発機構
- (5) 課題受付番号・研究課題名：J09-15・高精度地殻構造探査に係る日本海溝沖・北西太平洋での構造探査研究
- (6) 航海期間・出港地～寄港地～帰港地：平成 21 年 11 月 17 日～12 月 13 日・機構岸壁～機構岸壁
- (7) 調査海域：北西太平洋
- (8) 船舶の航跡図：



2. 本文：

(1) 目的：

IODP 計画で推進をうたわれているモホール計画を進める上で、海洋プレートの詳細構造や構造変遷家庭を把握することは不可欠である。本調査は、北西太平洋海域に到達した古い海洋プレートの標準的な構造を捉えるとともに、アウターライズにおける海洋プレート構造の変質を捉えることを目的としている。

(2) 実施項目：

1) 海底地震計(OBS)の設置、回収

日本海溝付近から太平洋プレートアウターライズの沖側にかけて長大な探査測線(A3)を設定した。75台の海底地震計の設置と回収を行った。

2) 屈折法・反射法地震調査

A3上の屈折法・反射法地震調査には、総容量7800立方インチのチューンドエアガンアレイを震源部とし、6km間隔で設置した75台の海底地震計とグループ間隔12.5mで444chのハイドロフォンストリーマーを受震部とするMCSシステムを用いた。なお、OBS#61から測線東端までは、荒天のため、MCS曳航を省いた。

3) 海底地形・地磁気・重力観測

航海中は海底地形・地磁気・重力観測を連続して実施した。海底地形はSEABEAM2112.004によって、地磁気は船上三成分磁力計によって、重力は船上重力計によって観測した。

4) XBT

海底地形調査の音速補正用にXBTを3箇所を実施した。